

新石所圖書會

前編

卷之四

			八	八	和
			七	七	書
			二	二	門
			四	四	類
冊	架	函	號	類	

			八	八	和
			七	七	書
			二	二	門
			四	四	類
冊	架	函	號	類	

内閣文庫	
番號	和 8872
冊數	11 (4)
函號	172 177



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

都府所圖會卷之四目錄

右白虎

摩訶輪寺

時雨桜

朝日峯

白雲寺

清瀧川

遊戯化野

三寶寺

小倉山

時雨亭

厭離菴

愛宕山血籠圖

長明神

清涼寺

暖帳帝塔

大澤池

名古曾瀧

僧正遍昭古跡

通昭寺山

野々宮

常寂寺

薄馬場

龜山

高野瀧

搔原

念佛寺

二尊院

定家古跡

西行古跡

融大塔

相澤池

千代古道

芥川

天龍寺

日暮瀧

火伏権現

性生院

條金剛院

為家墳

車僧塚

大覺寺

廣澤池

麻の聲山

歌詠橋

嵐山

大悲園	大井川	法月橋	千鳥灘
こみせの湯	小督塚	佐川寺	有栖川
法輪寺	西行樓	桜のり水	車折社
惟子辻	安堵橋	常盤社	左奈慶院寺
牛系圖	本橋社	地藏堂	海生寺
梅の宮	梅津川	西院春日社	松尾社
葺りの水	月讀社	華嚴寺	衣手社
葉室西芳寺	地藏院	唐櫃越	津住寺
天教森	上野橋	桂川	桂の里
久遠寺	大江坂	時鳥園	峠地藏
大原野春日	花の寺	龍清水	日野嶽
西行樓	せいの水	翁の龍	長岡都
栢社	西岩倉	三鈷寺	梵嶽

善峯寺	小塩山十痛寺	在原業平塔	塩竈古跡
業平母公塔	朱雀権現堂	源為義塚	水薬師
辨天社	西寺古跡	山伏塚	松尾系礼馬
唐橋	吉祥院天満宮	鳥羽里	實相寺
貞徳翁墳	地藏堂	こい塚	下多孫志塚寺
法傳寺	横大路牛車圖	久世里	藏王寺
琴彈橋	鷺尾寺	福田寺	板井清水
羽束師森	向日明神	真經寺	寺戸願徳寺
乙訓寺	粟生光明寺	真海印寺	寂照院
揚谷観音堂	長岡天満宮	小倉明神	園明寺
帰海印寺	山崎	離宮八幡宮	宝寺
観音寺	八大天王	妙喜菴	天満宮社
宗鑑古跡	関戸明神	谷観音堂	



春日朝

春日朝

丹波

春日朝

春日朝



愛宕山

石の
早の
ろの

愛宕山

愛宕山

愛宕山

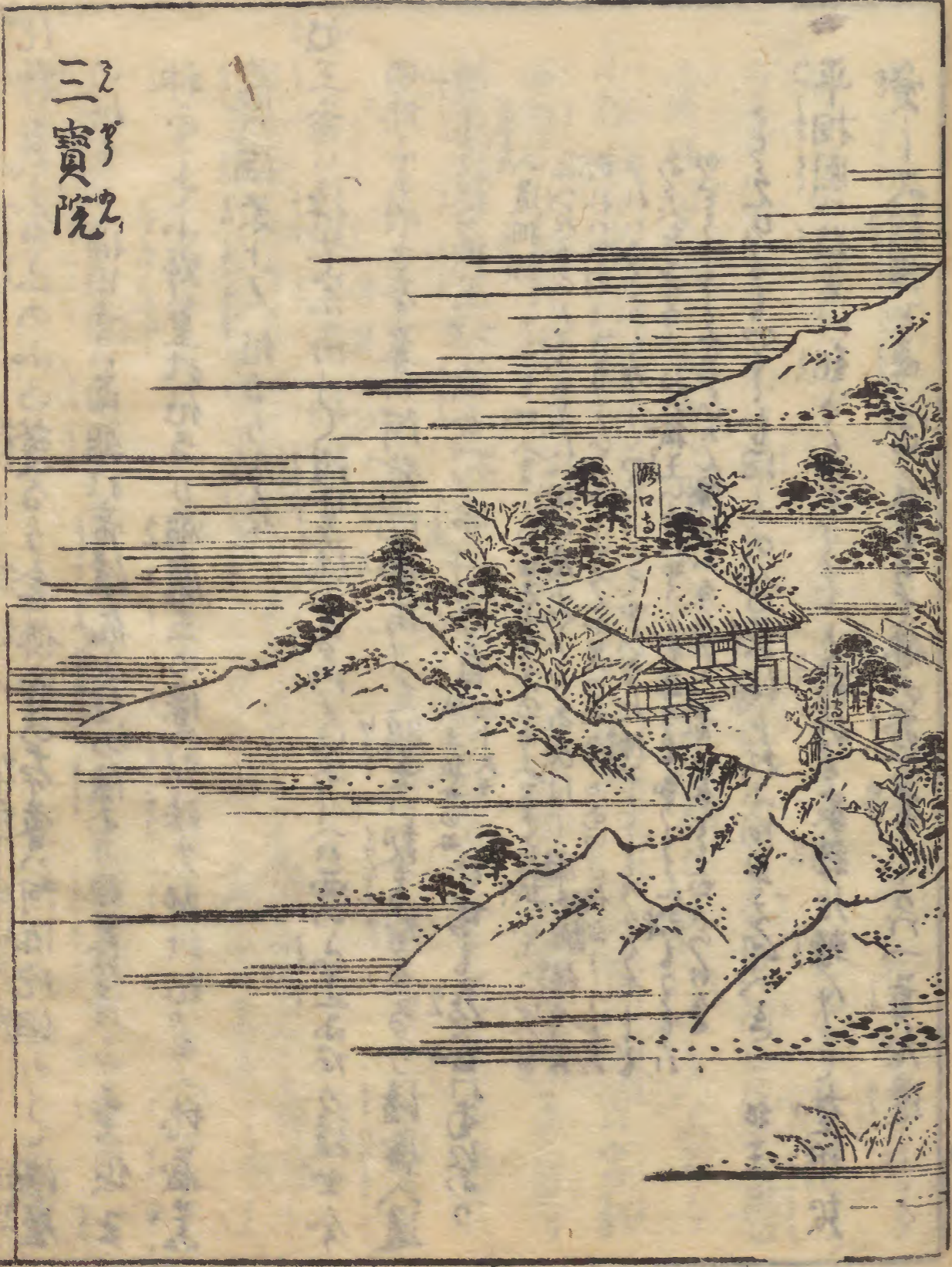
愛宕山

愛宕山

愛宕山之や一海王城の乾し朝日嶽白雲寺と號一住居り
坂海才町ありてふ試の峠あり清瀧川後橋橋火煙控現を
十七町目より橋の系い山の麓あり南星峯とい乾しこの嶺を
の鐵の葉表れ顔の表を朝日と表と白を寺と表に
際流るる糸のみ香解ふなり清瀧川此水の白波
日 岩根より清瀧川の早々い波押りくる岩れ山
時雨は白波もあつて山橋の系いりりり
本殿の阿古子山権現ありて系所は伊弉册尊火産靈尊を奉だる
將軍地蔵を密約し帝都れ守護神として火災と水く退の之
久代を鷹の峯にやりにありと光仁天皇は清宇天應元年に慶後
法師けしとていきて初傳へり
元年後小角泰澄は西入の悪思退治せしむるの幽谷寂るのるを重くと靈
白雲寺といふは黒雲を絶つてと西聖の山にありて黒雲を絶つてと西聖の山にありて
評字は尊像は甲曹が帯し將軍の形は現しありて當社に建てるを執る

て和智術磨例祭を四月中に亥日にして神樂二基あり嵯峨清涼寺に
鎮守は清後所として野々宮ふ振之社に依倚し六月廿四日
千日祭とて宵より群集し月毎に毎日も老人血竹樂のりて
られ婦人童子れつらもる方社の嶺にたといは坂後れ茶店ふ休
らに白雲目のあを括ふあり土着けお興して足れをけりて
山城園二小畑なる高山ありて炎暑れれも峯寒く道は峻難なりとい
くも常に皆人おりく賑しきも只権現に感徳をり
鎌倉山月輪寺は愛宕の山腹ふあり 鐵の香井をたてりて 當寺に奉る八十一
面觀世音安坐を祖師堂に空也上人親書聖人月輪殿下は像あり
用基は慶後法師中興の九條園白を改大匠兼實之
龍女水 空也上人は小出居りて當山寒涼ゆり龍女婦へ化して
清泉涌出るなり龍女は今も湯減る所なり
小園を遷の時義實公名跡を押しめられし自依の像は遠く都より
より時を今もはけのまはる人といふる

三寶院



往生院





小倉山二尊院ハ愛宕北南にあり宗旨ハ天台真言律浄土四宗ハ兼蒙り

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

小倉山蘇蘇の寺ハ入相あはれありぬるるはぐりあり後成

王いかりに山莊と宮雄藏殿と稱し其後星霜おきよそ中興は然と人困

居のひええ元年十一月七日一宗模範の式七條の記法とて制せられ自承

と條を判狀とて入る當院ハ二世信空上人とて西山上人等百八十九人

記法にはせらるるのく自承の念とせられり法然上人は舍利堂とて式とてなりて日佛子半尼の志を教ふより七條の法

利と安を承法然上人は舍利堂とて式とてなりて日佛子半尼の志を教ふより七條の法

足引は淨影具傳ハ日月輪禪定殿下法然上人ハ淨影依の志深く尊敬乃

あまり上人ハ真形と寫さんと傳り上人のく辞して退せしは其後上人

石清下りれ浴室ハ入沐浴ありて衣と若し念仏ハハ休息の間画工法眼

宅磨あふありて簾中より窺ふ窺ハハ具形相なりとせらるる又六

坐のありて一方の足先出りり只あらるるありのほかに畫せりよ今心て

系りありて殿下ハ毒儀成りて開眼儀成りて宮上人變れけ足乃

出りり平懷の形なりとて持念せられりハハ忽然とて具足引れ坐

出りり平懷の形なりとて持念せられりハハ忽然とて具足引れ坐

寺は姿とる足偏ふ上人は奇特の繪師は名譽有りて人々奇異
 の多し故寺にふる足あり足引の佛を造りて新しき

法然上人は身二世正信房湛空を徳大寺大居士實徳公孫と美稱れ
 真徳公孫志願よりて浄土門に入りて當院を再興し土師院後院

二代の圓師と有り實喜上皇御帰依に勅命ふはりて浄土遺骨を當山に
 塔ふ細め奉る當山西の三世正上人も後源州院龜山院後宇多院伏見

院に圓師より當院の縁起の伏見宮貞敦親王西之條公條卿の兩等と
 外題の後奈良院の宸翰ありて画の土佐光信より又聖文殊の三衣傳

教大師の五條加賀長者慈覺大師の之衣皇慶阿闍梨の製法あり
 其外五鉢等伏見院より此所あり

黄門定家卿の山莊より旧地の佛殿のよりる此山脈小ありかの郷より
 又當院法堂魏より後世小倉山小ありて号るおれ

定家卿の山莊
 山下に著る

厭離菴
 定家卿古跡





あつきのまの血
竹葉とゆりて
移をえてねお
とあり
桃盛つと
まふまはく
おのりて
ふもさうした
みらとせなり
舞福

檀林寺とついでに檀林皇后は草創をたてて後醍醐天皇と称し
檀の義聖
廟基凡

亡廢しては地は淨金剛院と建つ
今ハニる院ハ
廢蹟ナリ

淨金剛院ののり又英海調よりとついで

長明神れやし後ハ二尊院大門のまゝなる祠よりなる所ハ檀林皇后は
長明神

とついでに又日堂宮ハ南ニ町をくりふあり皇太后の御後と
日堂宮

裏柳社ハ大門のまゝ中院町ふあり上ニ衣社散りし所なりとモ檀林
裏柳社

皇后嘉智子の後醍醐天皇は寵愛ありし西施毛嬙も若くは
皇后嘉智子

薨りぬ後戀慕愛執のたゞハ散散させんとモ遺命ありし
薨りぬ

峨野くふふ捨ふ其處都々所ふやしり後建ちくあるなり
峨野

とついで

西行法師の居れぬハ長のやしりるれありあり

我とのと秋の楢原なるふふ念れ里小宮を居せしり
我とのと

車僧の塚ハ二尊院のまゝ敷の中ハ一堆の所ありむりなりまは後
車僧の塚

京極英門定家卿の山莊ありし時雨亭と號する舊邸に遺るるあり

の御の詠あり又ありき園小なるを後全在故館に遺るるあり

いづれののる世より世は神を月夜はよする御ありん 定家

時雨亭も是よりあり定家の山莊なり清涼寺西乃門より

二尊院までの道二軒をとりて氏家所と中院町といふ

院あり今後して半と入る細道あり竹林は後世の門ありて東山而入

所ありてなり

是乃に厭離庵といふ門の如く柳れ水といふ清泉あり草庵乃

の西れる所なり

中頃より愛宕大若院

に領ありて堂室なりありしり今も破壊して片なり此庵ありて

禪僧ふとあり

英門は山莊なりあり

小倉と志くらぬれば知るべきものなり四葉はあやむ

定家

思はれんおとらふもいふもいふも好地ればわけてく

明月記 け書は英門わらうめを後醍醐天皇の御時御記に記す

彼記に曰 文曆三年五月廿七日 未 朝天晴 自不知書事迄中院障子

色紙敷故予可書由彼入道懇切雖極見苦事愁條予送之古來人歌

各一首自上天智天皇以來及家隆雅經卿

小倉百人一首といふ定家卿の地ありて只今仙百人といふ花実相傳と書

傳らむと一人一首に撰出の記あり新古今撰集の缺英門の心をいふ百人一首

撰とるも又一説云唐の勝子京に岳陽樓詩賦をよみたり又道雅二位の八条に御座

と云ふいふ小倉百人一首といふ定家卿の地ありて只今仙百人といふ花実相傳と書

傳らむと一人一首に撰出の記あり新古今撰集の缺英門の心をいふ百人一首

撰とるも又一説云唐の勝子京に岳陽樓詩賦をよみたり又道雅二位の八条に御座

と云ふいふ小倉百人一首といふ定家卿の地ありて只今仙百人といふ花実相傳と書

傳らむと一人一首に撰出の記あり新古今撰集の缺英門の心をいふ百人一首

撰とるも又一説云唐の勝子京に岳陽樓詩賦をよみたり又道雅二位の八条に御座

と云ふいふ小倉百人一首といふ定家卿の地ありて只今仙百人といふ花実相傳と書

傳らむと一人一首に撰出の記あり新古今撰集の缺英門の心をいふ百人一首

撰とるも又一説云唐の勝子京に岳陽樓詩賦をよみたり又道雅二位の八条に御座

と云ふいふ小倉百人一首といふ定家卿の地ありて只今仙百人といふ花実相傳と書

傳らむと一人一首に撰出の記あり新古今撰集の缺英門の心をいふ百人一首

撰とるも又一説云唐の勝子京に岳陽樓詩賦をよみたり又道雅二位の八条に御座

と云ふいふ小倉百人一首といふ定家卿の地ありて只今仙百人といふ花実相傳と書



清凉寺



五臺山清涼寺の小舎は東あり

後醍醐天皇の御願に建たせられたる

奉養の八聖釋教に至り佛の立像ありて長久の公天皇聖恩首錫磨更に好より
賜土の十丈の像の厨子に安置す東西に壇上あり文殊菩薩の坐像
作此尊容の二國を襲撃の靈佛あり釋尊在世に於てなりて生真に佛
那の如來の所母摩耶夫人釋尊成証生まうして後七日に誕生し切相
天より佛の釋尊成道なりて祇園精舎ありて夫より佛の成道に於て
のくまの憂九旬の間より此時四衆の軍釋尊成道なりて憂を忘るる
佛の佛填王はのくまの佛ありたるを尊成なりとて憂を忘るる
梅檀の心なりして天の聖恩首錫磨更に好より目連尊者の神通なり佛の御
相成なりありてのくまの尊成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり
居の佛法なりて奉養の佛ありて佛の御成なりとて佛の御成なり
近の佛の釋尊成道なりて佛の御成なりとて佛の御成なり
べしとて佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

宋の代に至りて本朝一系院の所宇永延元年南都東大寺に庇徒法福齋

坊後唐の靈告を蒙りて此尊像の感得なりて歸帆して同年八月十八日

天聰小達、伽藍と建立し清涼寺と號し以上御記の

阿彌陀堂 樓殿寺と號し後醍醐帝の皇子太子に當りて建たせられたる

本尊の佛の釋尊成道なりて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

佛の御成なりとて佛の御成なりとて佛の御成なり

大澤の比の清涼寺の良小あり菊の傍らうたけの中を天社れやりのあり

庭湖石 いづこにこれ中ふありしうは清涼院

大澤の池れりたうめとありて秋の夜乃屋 佐良

大沢れ比の玉とのみうれ小煙貯りあり五月毎の夜 康老

五所明神の社大沢の西ふあり古昔遊の具小にあり しつりいけは清涼寺の

遊れ青のくしてくさるめれと名を流れて程ゆへん 大徳言

小淵といふ極れ雙樹あり 今の人家

大覚寺宮の真言宗ありて佛殿ふ五丈尊像本尊に弘法大師の像あり

と之用基恒寂法師 傳和帝弟元 代々法親王所任職の 後醍醐天皇の政

大覚寺と号し 菅浦谷といふ大覚寺にあり 小松中將惟盛卿の君達六代前

角堂大澤の西ふあり後宇多院の陵あり ゆふ五講のる堂あり

相澤池 長刀坂あり 僧正遍照北回 古書に云ふ

大澤の池のなるれ 源をたどる 忠定

大澤池 大覚寺



大沢の池の底 大沢の池の底 大沢の池の底

五所

大沢寺

大沢寺

大沢寺

大沢寺

大沢寺

廣澤池
遍照寺跡



足利池
千鳥の井



藤名乾水

後拾遺
しらばの月如
住人もさた
ふ里の
秋に
夜に
月乃光りも
あり

廣澤池の大隈に巽あり寛朝僧正は池をたくりゆふと云ん

廣澤池の隈の柳うけあきりもつるまぬと云ふ るま

後拾 此の坊小僧もかゝるを其の月々の世々も中興長也

いふへの人のけしきもて月のをほく廣澤乃池 はるに位を改

中秋の月入んと都下の貴妙池のけしきもてよりとぐらふ蓋とめつる

千里を共うしてくまぬ空けりた五月も宿うた廣澤池と云ふ

も今こゝにありに物悲しく風は織雲に掃く降くあは月吸ふ

降るを寒し謝荘の月夜を懐く廣亮と云ふ梅小堂る和漢中秋の

日は賞とるる古今小堂る池

遍照寺と云ふ池の乾ふ向ふとるるをいふへ寛朝僧正はゆりたゆい

真言奥修れ池遍照寺の回りのたれ禁ふあり存尊八十二面觀世音

赤不動共ふ弘法大師の位也 今池の裏村の 坐禅石 遍照寺の坐禅あり寛朝の坐禅あり

所へ登天松 寛朝は松の樹より夫ふ登りしと云ふ 佐古曾の水 池の西の

系り親音清 池の乾ふありつるし、遍照寺より兜のやしち 佛の西の

寛朝僧正の常小僧とて生し兜をあり寛朝堂々の後 兜を石 坐禅石の

兜を寛朝坐禅のた兜をはるふ 鉤殿 此のやしちの傍にあり

鉤殿橋 池のやりの 大道法師足形池 廣沢の西の 屏風石 廣沢

千代の古道 廣沢のやりの 千壺の井 柳樹繁茂して

帯より池 廣沢のやりの 泉の霊帯と化して人となりしと云ふ

志のつが岩 的野 仙翁洞 野 依 具所にありし

原草里 廣沢寺のやりの 今八 土着つるはと具人の成を原草といふと云ふ

千代の古道のやりの 泉の霊帯と化して人となりしと云ふ
廣沢寺のやりの 今八 土着つるはと具人の成を原草といふと云ふ

新寺

下五系

あり

夕

し

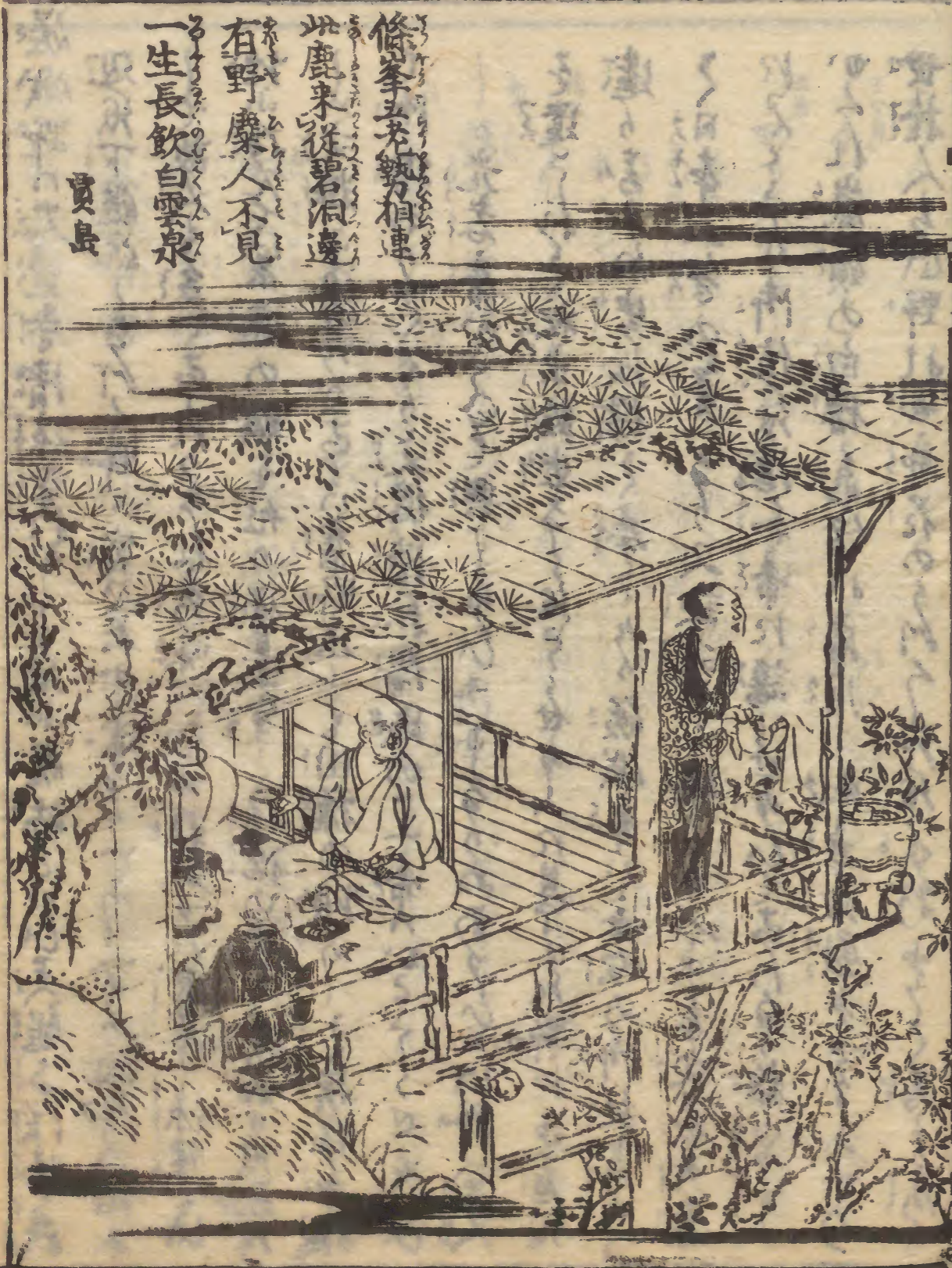
麻

ん

家

修峯老執相連
此鹿來從碧洞邊
有野麋人不見
一生長飲白雲泉

賢良



溪磯野の文徳寺清涼寺にありて松山遊海といひ天龍寺は臨海に
 迎風下遊海といふ野宮に其中途ありといふへり閑静の地と
 して故人も多くあたりて秀歌に和あむるに違ふ涼順も此
 地ふれんでは紫藤の賦を伝へ梯臺空く信侶の室ありぬる松山
 一の文輝ふのせりありて舊野といふも田獵の地なりて松山帝
 て所將ありてくもり文徳清和陽成の二帝ありてくもり
 一光孝帝ありて興しめい清幸ありぬありていひ野へ人
 を遣はれり松山鈴虫とて松山とてせり人に見やれ野に虫屋
 遊りありて松山松山とて奉りて松山松山とて松山松山とて
 久日本二帝の第一ありて又説文ふも連一のありて文書あり
 といふくもり所佐松山松山とて帝に譲りてせりてありて離宮あり
 かくら嵐嶺の白櫻飛緒は月小敷意松山松山とて人か乃
 世松人ありて野に女師花ありて松山松山とて馬よりありて

よめり

三季

名ふめりてわたりてを女師花松山松山とて余松山

僧正遍照

三季

のり人の草名衣なりもあはれ松山松山とて四方の白鳥

順徳院

三季

長久二年八月松尾社社率ゆる松山松山とて松山の女房車

中納言資隆

三季

伝せり松山松山とて末とて松山の松山松山とて松山松山

松山院

嵯峨十景

- 叡岳晴雪
- 難瀨飛瀑
- 遍昭孤松
- 愛宕雲樹
- 五臺晨鐘
- 幡山靈社
- 嵐嶺白櫻
- 仙翁交浪
- 龜緒落月
- 雄藏紅楓

野々宮



野宮と小倉山の巽る葎の中にあり悠記玉基の両宮ありて神明

張ある黒木の多井小芝場いりりへの遺風あり伊勢を神宮へ

新宮小立せぬ小因親王は所小三てせりり後あひて後葉一

ゆの初文のこしめい聖仁天皇の御宇皇女倭姫命あり

例ふよりて九月上旬右御所定して伊勢を神宮へ

向いぬりて後葉を神宮の御宇にいま後ぬ

松風の香に沁るる松の秘伝をけん子日のふらちととれ

雪のありて神宮を

神宮のありて神宮を

玉葉 時より出のりて

常寂寺と野宮の西小ありて花宗ありて開基は日禎上人あり

本尊は釋迦多宝に二佛に定家卿の社南のふしふあり

金吾秀秋の子ふありてとて寺寄附せりあり

常寂光寺



芥川かいがわの野宮ののみやのまをを流ながれ末すえの大井おおい河がわふ流ながる小川こがわのりむく芥川かいがわ
 殿とのといふ所ところあり龜かめの院いん浄じやう奉ほうあり一いつ所ところを
芥川當社の中にニテ
所ありおまへは

歌詔うたのまこと橋はしの天龍てんりゆう寺てらのまへ芥川かいがわの流ながれふかろ橋はし有り西行さいぎやう法師ぽうし
 け所ところ強つよ通りたすひしとせれた奇き奉ほうふ多おほく私わがかた橋はし有あり後のち帝てい
 あり後のち小西行せうさいぎやう返へんるふはまりしより號なづるをせ

薄馬場うすまばたの天龍てんりゆう寺てられ東藤とうとう王院おういんのむらりあり
 龜かめの甲こうに似にくも人ひと後のち渡わた我われ帝てい龜かめの帝てい
 離宮りきゆう孤こいしるみほせゆ久ひさ遠とほなり

春はるおふふ心こころいやしむてみるの花はなはかまを宿やどりふ暖ぬるれ
 かめのは滝たきつは波なみあつりてふ代の較くらむる秋あきの夜よ乃な月つき
 子日こひさるにつくは河がわれと龜かめのされ岩いわの松まつたれめをい



聖龜山天龍資聖禪寺の五山の第一なり大井川の小にあり願基を
 後醍醐師諱の智耀と跡石と號しありといふ本納聖の稱は勢別
 の人あり姓は源氏ありて宇多帝九世の孫なり母は觀音に祈り
 金色の光西より來り依吾とて名を賜ふと云ふに十月十五日に
 四葉少く母小坂くれ九歳のとき平法教院となり出家し十歳ふ
 して法義經教七日に誦し母の恩を報しつらうと母の死屍九靈れ
 相依画て独坐觀想し十八ふり慈觀律師に禮し具足戒をうけ
 三年の間に密の教教をうけしつらうと信じて大道の發明のみ
 して道場を建百日聖龜依求りしに期滿の日こそ中悅終と
 して夏之如く夏一僧來り慈觀依をたて寺小いするあり跡石
 と云ふ又一よりありあり石領といふ其因ふ一人の長老あり後
 窓依もく持くる一軸依ありてよく奉持しんといふ時と後夏
 窓あり依ありとてさうさ達たす身の画像とまより志依定免
 禪觀小歸り名依跡石とありとて慈觀依慈窓といふ觀應二年九月二十日
 七十七歳にて終るなり當寺の本經は足利尊氏公後醍醐帝逃竄のるふ
 所建立ありといふに地小松林あり市麿を其後後醍醐院龜山院等依内とい
 戸雅依此罷もさうう御切の所ありて画の筆力小なるはと中書王の公筆書は
 聖明親王の清信公が識するは在り免喪の賜をけりといは所なり
 佛殿は本尊の釋迦佛脇士小文殊普賢依安をたて下は牌あり大野對
 大神は銘あり梵天王帝釋天達が臨濟百丈の像いた右の壁には安まら
 いふの佛殿依寶皇宝殿と號し堂昭堂の聯芳とありて園山の像も此の
 前ふ真佛あり佛殿いひくの法をうり又堂の園山七朝國師號の勅書七通
 後地藏尊と安をた念持佛あり
 と耕方丈の倉い後窓國師の化ありて此は曹源池の書院と集務あり
 ありく塔頭多宝院小後醍醐帝の所廟ありは金剛院の願基は後窓
 村上足普明國師ありて光嚴院帝の所廟ありは真無院の天香山高
 の願基ありて細川常光の茶店あり具ありは盆あり足龜頂の塔の
 礎石ありとて
いふて天祐寺に九重の塔あり
あり依無頂塔とありく



嵐山と大井川と帯て山に向つてなる山あり 嵐山の麓に所を

新 ありて山奥より此やうなる山ありて人橋ありて白糸 後半多院

新 ありて山奥より人も嵐の山にふれんふ橋ありて有明の月 法印静賢

後 ありて山麓の花乃橋ありてやうなる山ありて岩の白糸 阿彌尊

麓谷やうなるありて山の麓にありて松尾七社の内あり

戸難瀬籠の標谷の西にあり大井川小流あり 大井川の一

玉 とおせより流を流り大井川谷に注ぐ本流ありたり 後流

後 せりて河を流りて流の尻にありて山を越えたり 定春

坐禪石 ありて山の頂にありて 嵐山城 峯にありて細川右京を改えの

藏 王谷 城の西にありて右殿ありて

大悲閣をありて山の麓にありて後月橋より七町より西あり

本尊觀音の立像ありて惠心の能なり角倉了意の碑あり羅

山子より取撰 意は 大井川の麓にありて丹波より丹波と

智福山法輪寺は後月橋の南にあり真言宗ありて本尊を虚空藏

菩薩に坐像あり 道昌法師 脇士を明星天雨寶童子あり

又約の傍のそとにも嵐山をふりてそとに月く形 高道

又當寺は天平年中に建立ありて葛井寺とあり 大慶の空室也上人は

中興の因基は道昌僧都姓は秦氏ありて額州香河郡の人と弘法大師小

真言の密法をうけ虚空藏求聞持の法に修せんとていふ山に百日齋

しぬ五月の月皓月西山に現れ明星東天に生る時因かみ取ぬ

光炎頓小耀て明星天衣に袖の人ふ衣冠一色虚空藏菩薩と現れ人の

縫のぬく條のぬくぬくぬくを經てて其體滅せんと生身の尊ありて

道昌則虚空藏菩薩の像と刻袖の像と後ゆふに時弘法大師と稱して

因眼供養ありて是當寺に奉る真觀十六の山ありて改ては橋ありて

落星井 又明星井といふ本堂に南ありて井ありて社を建て明星天と

泰終堂 都の工織人は所ふ終て一七日断食し終て



大堰川れ水上と小丹波より流るる水尾川清瀬川小瀬谷合は猿龍門
大瀬等の名ありてありしは帯一は月橋は終て末は梅津庄の里
のむぐり流流はくは流川小瀬

新古今 延喜れ所とれた大井川小瀬幸徳の日記 坂上是則

かきとくふ今いし菊のふりうらなはれ流ふもあまをまらん 貞之

大井の川をの松まてとりのつる清幸やとりしむりしも 忠岑

は河の流れははく小瀬よりありてふ代ふ一はとむ水の黄河ふは引くはん

筏の心んくありは遠近れ驢人扁舟ふはく掉うめぐりやうは岸あり乃若

回ふよせ考候とめた水れとくうたはなやま又流は流暇うて結ふとあり

あり水上小踊る若鮎の釣と争う幸動と依樂ふ小石からう所へ網を

おいて夜ふ入るをも狩ありは凜とくは河風う暑と志れ流増れ興ふと業じて

はふふ歩一帰るも多し續文粹ふは天下の勝地大堰川小過くはをわし

城中の名區は暖洲野ふまぐいありはくうん右大臣師房卿も宣ひし一

月橋の大井川小ありて法橋寺人流る橋あり一名を幸橋法橋寺
橋もい

風雅 大井は香うりつる橋の上ふり人ともく雨の外意 前大井書業

小督橋ハ大井河の小之形系屋の本敷の中ふあり小督局ハ橋町中納言

歳範卿の女禁中一の美人さうびねれ琴の上ふり高念院ハ清愛妃

ありしは平相國清盛ふ忍むくは流流所ふ徳ら弾正仲國ハ勅と書くと

寮の清馬坂のりりて明月小鞭とあげ西とくしてをわゆとるやうなふ

山里と咏くんく時ハ秋の夜のをいし表ふとくあぐりるめりうりした

龜山のあくるらうく松のむらうらうた出ふ琴の音聞ぬはハ仲電と

あそと嬉しく門とれたとて入て清安とてくはて清なる流流りふと死

歸りまうに主上りる流ゆつへの清清ふさうせたまふる

千鳥灘ハ小督橋の西武町とくう小瀬あり

横笛流は小瀬れくは所小舟と流し由盛表記ふりく

西行橋 法橋寺の南あり西行法師は所不修て橋を造りて今も遺蹟あり
靈龜山臨川寺の屋月橋のあり禪家十刹の第一なり

三會院に本尊の弥勒佛ありて坐像之佛殿の類 三會院 足利義満公が
とせは地を舊龜山法皇の仙居ありて建武二年十月後醍醐天皇

より岡山を遷宮師小幡あり 鹿王院の臨川寺の東あり禪宗ありて十刹之佛殿に本尊の釋迦佛
脇士小十六羅漢と安坐の運慶の他用基普明國師の像尊氏公の像

右の壇上小安坐の當寺の本領の將軍義満公ありて至徳元年の建
立あり什寶の佛舍利あり 傳小日鏡倉將軍実朝公の靈屋にありて末國へ移り

後光嚴院帝の御安坐國師小幡ありて禁裏小幡あり其後安坐の普明國師小幡あり
今當寺小幡あり毎年十月十八日舍利會を修す

車折社 下流派材木町あり 五道眞官降魔の地ありて一坂あり清和真人
このありて牛車折の車折ありて今も遺蹟の商家賣買の價の高低遠近あり

右栖川 材木町のありて小幡あり 齊宮 有栖川のありて人家の
千早振りのありて有栖川松とありて小幡ありて

帷子辻 材木町のありて上流派下流派を常盤廣澤賣客等の別れあり
帷子辻とありて榎林皇后の骸骨ありて野小幡ありて帷子の影あり

安堵橋 帷子辻の西ありて清涼寺のありて火災ありて未開橋の香地敷あり
是より名はけり 甲塚 安堵橋の左ありて火の雨ありて油掛地藏あり

常盤杜 阿弥陀佛と安坐あり 乙子地藏 杜の西ありて乙子地藏あり
地蔵堂の傍源光房の庵あり牛若丸の母常盤前けり里の人ありけり

常盤墓 紅葉せぬやうのありて麻を埒のれりてる杜とありて
長松とありてぬき盤のありて人々を面ありて

古御所 常盤の東ありて八条女院のありて藤本
後白河の御室のありて藤本

新橋 御所のありて杜のありて藤本
定家



九月十二日
右秦牛糸

聖徳太子

これにて

執りし

たし

糸文

弘法大師



御
の
ま
へ
へ
と
の
ま
へ
へ



秦廣隆寺ハ洛陽二條通の西なり

秦人の里の名に依りて應神天皇の太子

み昂錦とほんりて人の唐の所なりぬ故に唐の秦と訓しとて秦の太子と云ふなり
ふりく當りてはひは地をくくしぬぬ秦氏則秦始皇の廟を建てるなり
故くらくてを秦 當寺のたつたを推古天皇十二年八月小大子天皇御臨幸て
訓くを云ふ

聖徳太子近き秦川勝原召て宣入すり我の夜夢るは是より遠くの也ん

一村あり楓林繁茂し清香帯に薫し林中ふらふ朽木あり無量に賢聖

諸経の要文を誦しあり天童妙花依供しふふり老依放微妙の聲

何の法法演今まれば地小住人川勝ハ則駕成めくして前敷人其日

葛野の大堰小臨してまらるるあにまれば楓林の仲み大園の掛樹あり

異香薫し其樹の空虚小寺瑞世寶園あり光明赫々しく蜂多く集り

聲を發し隨身ふら拂ども盡し凡人ハ蜂と云ふれも太子ハ賢聖と云ふを

かりぬ人則假宮城蜂園のともふ造て川勝小勅し百濟よりをも佛像

城安率しふら蜂園寺といふ 後小唐隆寺と改む唐隆の
那勝の名に依り傳記の大意

太子堂の薬師如来の向日明神の所也之傳小曰山別し訓郡向日明神乃

社前山橋本あり幾回に年派歴てなまらば一日異人來りまらば依て

佛像派造り南無醫王尊薬師佛と稱し忽社前小入るる人足依依

聴く集ねた志も靈驗ありて耳目を驚かす日郡大原寺 日本後記延暦十二年十月
乙卯社の佛像と人來りて

はら小智威法師といへ人唐より來り居るは社司等の僧小ありは都鄙

袖とつとつと群衆に感應はと新より智威没して後丹後玉石依寺小

うの具後清和天皇勅して當寺の存るる之 待賢小侍堤よのをまらば
能く多平盛妻祀ふあり

太子堂小聖徳王所自他の形像派安率た代々の天子あり黃檗派の御地

御下袋衣袴内着石帶等派再派修進ぬ 今小唐を二十八百年小別能く
はす金屋派の軍配圖あり大原の國に對し

地藏堂 金堂の西あり地蔵あり
道昌大僧正の起り 鎮守社 三十八所の
社あり 樹伽井 伊佐羅井
あり 赤天社

土用塚 太子堂の西道の中央あり
太子塚あり 大酒明神 天照を神八幡宮天滿宮に對し
多る一社あり

懸宮院 太子堂の西一町あり
天皇十二年太子自土本の功あり

懸宮院 太子堂の西一町あり
天皇十二年太子自土本の功あり

階壇帝より推古天皇へ送りぬる聖徳太子の像自他よりて依り

祖師堂 金堂の西南小あり中野弘法大師の理深大師南の道昌大師の像
 安曇入山の僧侶の如意輪記の安曇安曇安曇九月十二日夜成の
 牛乳の神幸あり當の僧侶入人入大尊の形小敷の面とく風流の
 看の志乃派佩を人を幣派推く牛小敷四人を前後派派圖徒を松田
 行烈種々として本寺の傍より後巡り又西のより祖師堂の
 祭文と讀ば文は古代の法とぬと定るを奇りして法人取派

祭文

是以姓派乾坤の氣ふけ徳を陰陽の回小保信と專りて佛つ入
 天尊地卑の禮とまは是非得失の品派系を是偏小計明の度思
 等一を懇切に抽て十抄の儀式とせらるるの逸興派派
 侍人諸衆の感敷なるを派派く暗小神の納受とせらるるの
 くさし足小僧眞高派派はけはけのち中派派と要入回派派
 馬小派派はけをせらるるのありありの偏小鬼夜小黒る
 叱羅神と殺系一なるのありありの天下安穩寺家安泰の
 退くたきとの先り三面の僧坊の中小まのいへて物派派
 小動とと本とのありありのありありとありありのありあり
 のありありのありありのありありのありありのありあり
 小向くありありのありありのありありのありありのありあり
 無のありありのありありのありありのありありのありあり
 のありありのありありのありありのありありのありあり
 地蔵堂 在秦の南小あり向日明汁地蔵のありあり
 古枯社 在秦の南小あり向日明汁地蔵のありあり
 楓木の聖とま

本鴻社



新助様
 何なりあり
 白あいの
 香にまぐら
 後松田





別荘

小祠

本社

新宮

大日堂

金剛殿

松尾社



津路村
 松の尾
 の
 草
 の
 近
 葵
 の
 院

本宮社に在る秦のむぐ森の中小あり天照御魂注ふ多の瓊々杵尊大己

貴命ハ左右小坐と蠶糧社ハ本社のかう小あり糸と織あまのつむぎの事

社と致と西の傍小清泉あり 世の人元弘といふ名義ハ詳多中三ツ姫命の

當所社司石鳥居八角のむらり 例祭ハ九月廿一日 豊瀬社事ハ二月十日

の祝 祈り 文保二年四月文保二年四月元士伊時遊仙窟と修せり

文保二年四月元士伊時遊仙窟と修せり 結老翁あり常小あり伝伊時あり

結老翁あり常小あり伝伊時あり 又七百歳の年歴のる狐又七百歳の年歴のる狐故小あり七百歳

又七百歳の年歴のる狐故小あり七百歳 梅宮ハ四条の西梅津里小あり

梅宮ハ四条の西梅津里小あり 酒解子神あり相殿ふい摘贈酒解子神あり相殿ふい摘贈

酒解子神あり相殿ふい摘贈 海生海生五泰の南竹林の中小あり

海生海生五泰の南竹林の中小あり 梅津川梅津川大井川の流るり

梅津川梅津川大井川の流るり 春日社住吉社春日社住吉社西院村小あり

春日社住吉社春日社住吉社西院村小あり 松尾社松尾社梅津の西小あり



明智坊石像

松尾社の小一町をくりぬきあり明智坊の石像の礎はありて人伝に
 神像よりくりぬきて山を退きては所小田原に

月讀社の松尾の南二町あり松尾七社の内あり

当社鎮座のいふは昔より
 一と教歴をた松尾より

以前よりとてり齊藤三年三月小田原郡月讀社を松尾の南二町ありて文徳
 實録不出りて又徳帝行幸仁壽三年小田原郡月讀社を松尾の南二町ありて文徳
 當社の神託ありてその害と教りて人足より一と實教をた松尾の南二町ありて文徳
 神のたより松尾の南二町ありて文徳

狐齋の松室の西住還の儀あり

小社あり幸の社あり
 実の地あり

美巖寺の月讀の南谷村竹林の中あり

宗高の華巖ありて
 年尊をた

日如去丸の釋迦佛

頭小室冠を戴く長尺
 右小田原鳳潭像

門の額華巖寺の美巖院えの寺に在るの懸

と風潭の寺に在るの懸

の延朗上人の住みし谷堂の回廊

近半鳳潭和尚華巖ありて

再興のんとして松尾安照寺に遷して

美巖寺に改めし地ありて

衣手杜

松尾の衣手杜ありて

秋毎ふたの原

んとして松尾の原ありて

涼しうふたの原

んとして松尾の原ありて



月讀社
兼室西芳寺
樹の里
久遠寺



俗の西より根元香の
里大枝のハミツチ樹林あり
知れきるはるか西あり
子規さんて杯の騒ぎは
やけりたつてさるる月のほ
けよりぬれてあつて
て沈むる時おのの
一聲小地ちりこりて
ほしんてさるる
草庵拾遺のなご

西芳寺の松尾の南葉室あり禪宗ありて本尊阿彌陀佛ハ聖徳太子
 の御化より因基ハ聖武帝清宇天平年中小行基堂中興ハ後窓
 園師之方丈の庭の依り後窓の依り庭中の造化四時の凡光玄妙ありて比に
 西来堂 佛殿といふ本尊ハ東連の係 瑠璃殿 無縫園の 釣寂菴 書院及 砥指
 龍口の傍の賣風店 小頂へさる道の側 縮遠亭 徳頂の 黄金池 船の傍あり
 小亭といふ 合同殿 力夫と指東菴 指東菴 園の佳境に臨み
 指東といふ 是真如親王の居の旧地あり
 園師は室に入つておとそと

湘南亭 中の亭あり 潭北軒 佛殿の 貯清 小の小院と
 士峰一覽 貯清の南と 景向石 命と
 といふ其の日異人七人ありて其力を結ぶる此松に白首老人ハ此松に坐りて
 て曰我毎日此松に向つておのく樹下を歩く松尾明神ありて
 一説子之園師ハ庭の石松をくつて居りて其松をくつて居りて其松をくつて居りて
 其松をくつて居りて其松をくつて居りて其松をくつて居りて其松をくつて居りて

地蔵尊ありて因基ハ宗鏡禪師之 後窓園師の法嗣ありて 舊地蔵菴ありて
 家良公の心莊あり 後ハ松尾菴 細川頼之當寺を建てしと諸堂を敷きしと

葉室山津住寺ハ禪宗ありて黄檗派之本尊ハ如意輪観音 坐像 天竺佛
 小志て鉄牛和尚感得の尊像ありしと因基ハ興聖菩薩とて此所の
 葉室中納言言定然寺を建てて因基ハ興聖菩薩とて此所の
 天鼓森 下田のありて

文徳天皇陵 下田の南 御霊社 中柱村あり 桂川 上野村あり
 桂川 上野村あり 桂里 川の西あり

廻地藏 下桂あり 華洛七道の一あり 毎歳七月廿四日群集に

久々の里のささ衣ありて八月のささ衣ありて 定家

久遠寺の挂の西河沿ふあり は所々寺内 西條本願寺懸所より西山清坊と稱

阿弥陀堂 本尊は安阿弥の 開基の覺如上人あり 當宗の開基親聖聖人

の上人あり觀應二年正月十九日 覺如上人塔 堂後 ケ千くの面 當宗の

八十二歳ふり入寂と 本社の面より早の半里人さな候より雨と祈りを乞其驗あり一年西六系本寺

の宝藏小叔ふ寺内倉庫として出た又は所ふ忍ふ今ふあり當村小災あり

大枝坂の檜原の西一里ふあり 村の西を四つりふ山楯丹波國塚の立石あり

は所々家多し村の里より丹波の産物あり 酒吞童子首塚 首塚は所ふけり

峠地藏 入福寺と號と大枝坂村ありむり 市盛長者 人の族あり

實土のくろくは救ひぬ人と稱し僧都の法門と説ぬ人の女あり

安室の浄位ふ地藏院の向より丹波の王子村より 唐櫃越 唐櫃の浄位ふ地藏院の向より丹波の王子村より

大原野 檜原より神二十所ありふあり民村多し

知子啼大原山の櫻のりふありそまろ〜〜〜

大原野春日



花の寺



春日社の大系野林中あり

二條のまゝいれのゆゑ東宮にちよと所とすなり

ありとすく小左のらとくまの神代め〜のりらあり かひれに

大系社も〜んりの意〜人氏のおろろる 一條拵政

後拾 あり〜はの山のや〜きたあ〜のりらあり 一尾大住

當社の神は武甕槌命齊主命天津兒屋命姫大神の四座ありて

往昔仁明帝嘉祥三年乙未大長冬嗣公の辰沙汰しぬ南都之宮

より勅請し平安城守護神と定めぬ 五條后順子路々清のい〜藤氏の家

遠くれた系野ふ〜后妃夫人のま〜を〜お〜人〜二月上の春日仁壽

元年より路々南都薪の社奉り〜と納り〜し〜

り澤池 社の南あり 願和井清水 池の傍

夜なま〜の井ぬぬ〜

小左山勝持寺も〜目社西小あり 宗首の天台ありてなるるの染

師如来 傳教大師 本堂の額に小野道風の象當寺とももの用基ハ役行者

ありて自他の不動明王と本尊〜大系寺と號と 不動尊今 伽藍僧坊

四十九院魏〜して嚴重〜り年経〜破壞ふ〜と佛陀上人再

遠ん 文徳天皇佛陀上人と師帰依 岩窟に石不動ハ弘法大師の作り西行

法師像西行接 堂前カ石 西行菴室 う〜之町よりあり當社の傍南極花

西野沼 石壇の下 辨財天社 体のり 役行者窟 西のらと

いふ〜え〜は〜の〜香いりは〜 光傳

毘沙門天 傳教大師の他之 地蔵菩薩 日他より 役行者像 堂内 白山社 當社の

二王門 金剛力士と安んん何の像の 玄廣石 林の中ありむり玄廣僧郭

急鎮和 尚もは地と隈人のひ虫のま〜てりあり

系源に宿れあり〜も〜ふ〜世に伝へる〜

巻録



西岩倉
金藏寺



西山三鈷寺と岩倉の南原谷にあり宗旨の
 本尊佛眼曼陀羅を觀性法橋の
 壇上五の釋迦弥陀の二佛安坐を惠心僧都の位之堂内なる智者
 大師像善導大師像善惠上人像宇津宮蓮生法師像等と安坐
 金色不動を智證大師の位之方丈に奉安す
 拘止阿弥陀如来の慈覺大師像也
 善導の志定に拜り感信を成りて佛を成す
 小形歸りて一歩一歩の修業を成す
 佛を奉安す八月十日に成す
 一巻の西三條道通院の所也
 當寺の開基の源義上人の觀性法橋を銘記高もいなり
 中興を善惠上人の善惠廟塔之西にあり
 當寺の終項の鬘髮藏とあり之峰あり其形之鈷小なり
 三鈷寺といふ
 上人曰く讀より二大佛七城にあり
 世に西山と人といふ源義上人の碑の銘あり
 世に西山と人といふ源義上人の碑の銘あり

三鈷寺



西山
善峯寺





小塩山十輪寺

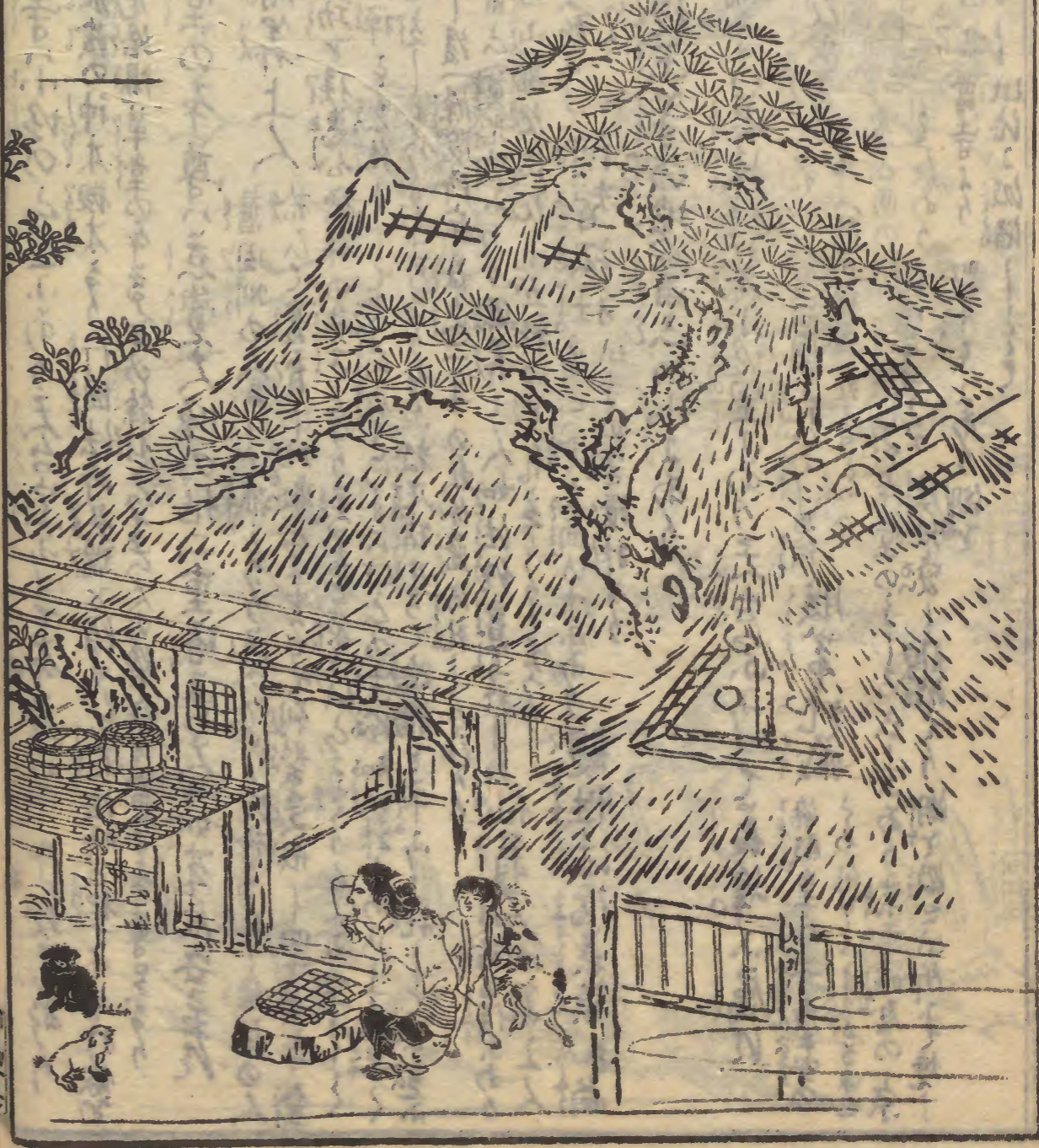
續法塔ま
香て切
秋の
名抄と
小塩山
麻毛
こしん
あらん
十臣師宗

西山善峰寺

西山善峰寺は小塩のふもとあり天公宗よりて本尊の千手観音あり
 此寺尊いか依の神本概本あり 行因法師及瑞と得の弘仁法師と招て千手は像を
 依りて是は洛陽華堂の本尊なりその餘材をよそ人の像と依り當寺本尊是なり
 阿弥陀堂の本尊は慈覺大師の他二重塔あり人日如来安坐を
 田基源算上人 舊因州の人あり孤とあり道のくつた於らん一版所の人
 壇重受れ功と後惠心僧都の弟子とあり其妻と崇りけりまかり石上坐し
 七五夜生禪を依りて老翁とありといはれこの住の知照とあり上人早く
 佛場を建てしよりあり天可なり時小ね正猪をて檢難と平み化して云ふ
 天聽も連一後一條院中長久二年の秋休盛成社一のいなり
 白山水 當山寶光坊あり源算上人如法經書写れり仙翁石の像あり
 白山水 白山楢現出現し五杉のまゝまゝなり
 観性法橋 觀性法橋 觀性法橋 觀性法橋
 眞圓法親王等の墳當山のふもとあり
 小塩山十輪寺は善峰に蘇小塩里ふあり天台宗ありて善峰小塩に
 本尊の觀世音 花山法皇西國心札のてめ清
 坂常地藏 深殿皇后安養寺安の
 互原業平塔 當山西の塩電古乃 本堂のうらふふあり業平塔の京
 潮田池 當寺より一町半ありあり湖と
 けはよぬ池



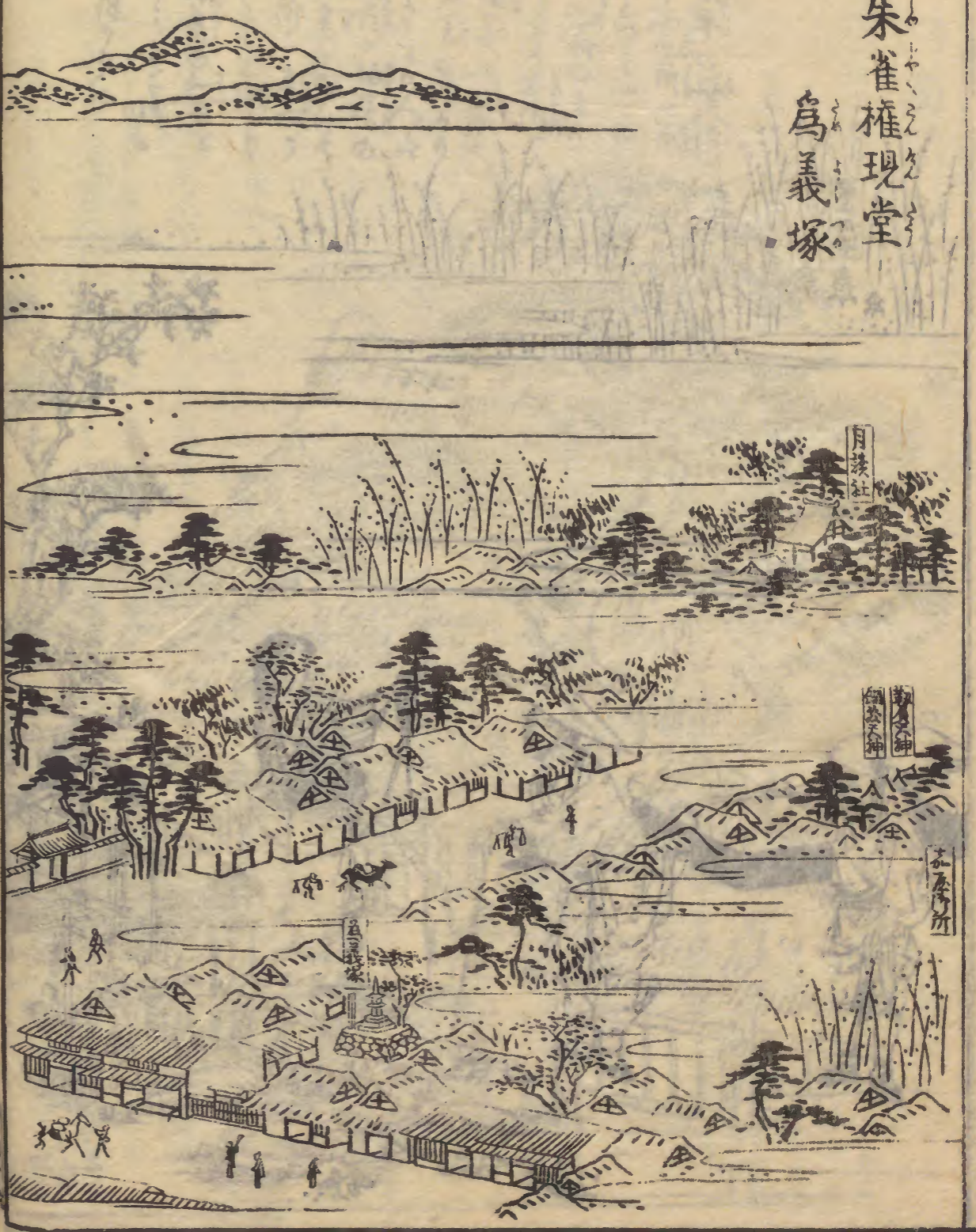
業平の母は
 舟入の所へ長
 閑とつゝと作
 勢の河小る人
 舟り人其所
 小堀のらは
 づゝとつゝと
 屋敷が袖萩の
 花妻をのりそ
 け所ふえきり
 むしと感ト
 懐舊の和ると
 ようとつゝと
 せうりつた



水薬師



朱雀権現堂
鳥義塚





西寺
古跡

古跡

古跡

権現堂ハ七条十本通ふあり本尊ハ勝軍地藏めて聖徳太子ハ所化ん
 又對王丸の守本寺地蔵と安重ハ
 阿弥陀佛ハ惠ん化有り 當寺ハ権現寺と号し津土宮あり本尊
 源為義の塚ハ権現堂の前 氏家の圃あり 保元二年後白河院ハ
 鎌田兵衛正清ハ申けり為義ハ 嘉屋御所 本尊ハ西道の山あり田原
 津守所ハ則権現寺の持地あり 松尾明神 津旗所 西七条あり勝寺あり
 水薬師寺ハ西七條の南小あり本尊薬師如来 延喜二年 各財天社 本堂あり
 社ノ下小清泉涌出ハ平滑盛熱病ノ 辨慶石 後堂あり古ハ二条
 門ノ額 水薬師寺と書きて當寺近來の位蔵泉南の筆あり
 西七條ハ側 靱負天神 細敷の西小あり宮の東南山の道あり
 大内裏の右京あり靱負通之故云々云々

松尾 祭礼



川勝寺の西七條の西七町ふあり 所のふあり

西寺に旧池を梅小治れ有ふあり 守秘の衛樹別池西方寺ふあり

唐橋の四つ塚に西六町ふあり 秀吉公朝鮮出陣に時此街道をわたりて

吉祥院天満宮の唐橋に南ふあり 本社を菅神とありて吉祥院ふを吉祥

天女を安んず 傳教大師の化有り此所の菅家の所領地ありて別荘あり

船中みして凡波の難小嶋に舟あり 傳教大師求法の為に入唐し則同船

石原井 多磨の橋あり此の井は天女

鳥羽里の四塚の南あり 上鳥羽下鳥羽と南の里

あやめ茶引人もる 此塚の名は小波に六月五日

あやめ茶引人もる 此塚の名は小波に六月五日

あやめ茶引人もる 此塚の名は小波に六月五日

あやめ茶引人もる 此塚の名は小波に六月五日

あやめ茶引人もる 此塚の名は小波に六月五日

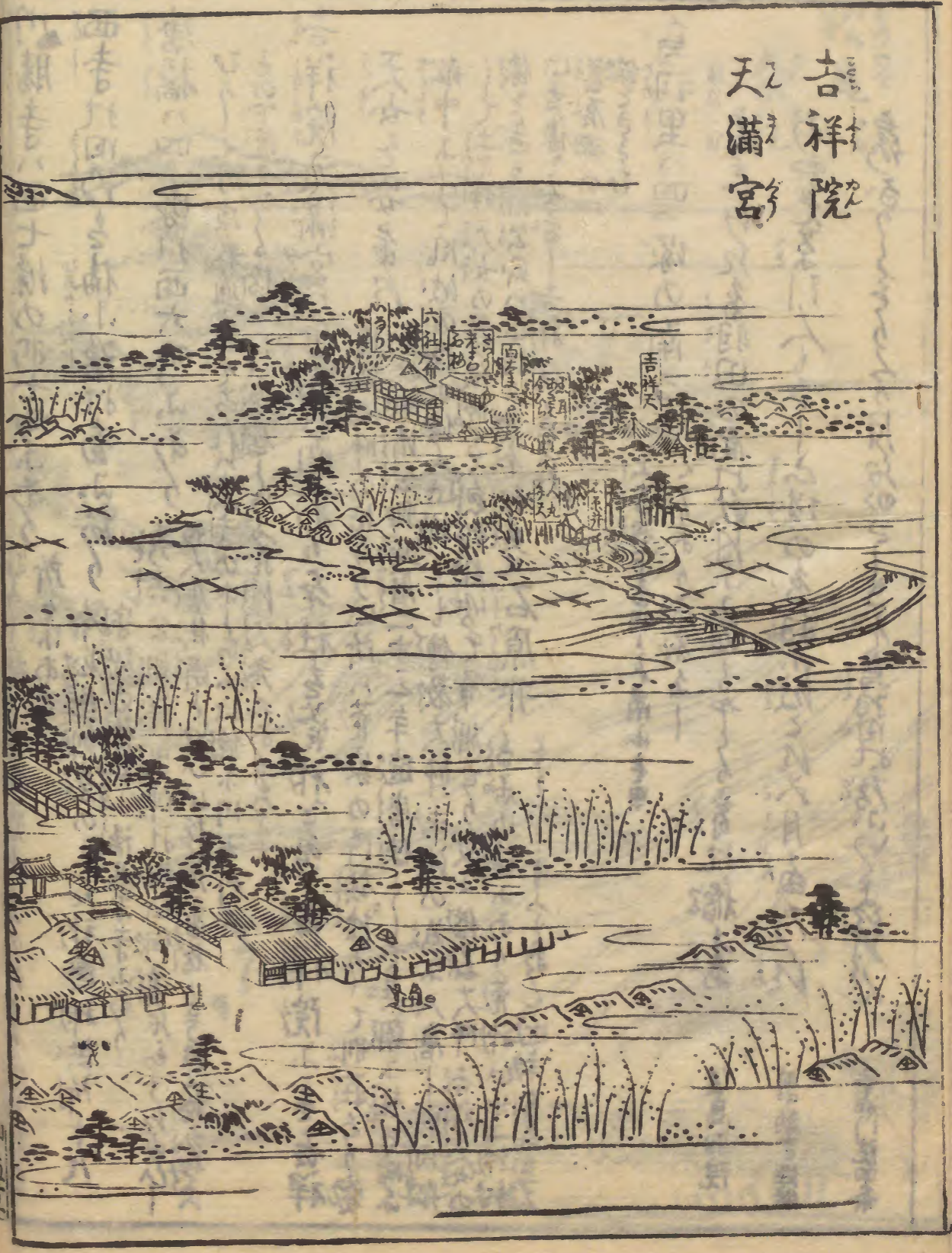
後鳥羽院

中納言経盛

安徳院西条



上鳥羽
實相寺
貞徳翁塚
地藏堂
五五〇



吉祥院
天満宮

下鳥羽
癒塚寺



實相寺の上鳥羽西側ありは法華宗ありて開基を大僧上人あり本堂乃

脇壇小松永貞徳翁の像あり

松永正久秀丸落胤とて天正五年大田國信

貴城滅亡のときと云ふなり一が母方の親族小松

長の後武田信玄の孫と云ふなり

蘆丸屋

本堂の裏あり貞徳翁

貞徳翁墓

九屋のうしろあり

應二年十一月十二日

在八十二歳

これ死するは橋をたてしむるもあましく佛にうけりやと云ふ

貞徳

あはれしくときの人をいひきりて死す人なりと云ふ

全

とふりくは月をうたせし海と云ふなりと云ふ

全

廻地藏

實相寺の南東側あり

地蔵堂の南

観音堂

地蔵堂の南

癒塚

観音堂の南浄禪寺の

門前あり羅山子の碑の銘は

直清なり癒塚二方あり

小枝橋

癒塚の南あり

橋より上る相の南あり

之我照

上る相の南にあり

秋山

癒塚の南あり茶店の向あり鳥羽法皇城跡あり

後光

長久の鳥羽田村に指延くすたるりぬ秋のふり香

等持院

夕日ぬ秋のふり香たるりぬ秋のふり香

鳥塚寺小枝に南八町こくりふあり 銘曰渡を九衛門尉源渡妻

袈裟前秀玉善尼墓 天壽元甲子年六月廿四日父上人開基鳥塚元

遠藤衣者盛遠 出家して渡の妻は志慕して千束の糸を寄る小真言に

随ひ渡が姿とぬ盛をた斬ると貞女の標衣殿とす世のさう所るり

法傳寺を鳥塚の南より好い真言宗ありて本尊の茶師佛は安坐並に

行基の依り洛東智恩院位藏因智上人は寺小田居して淨土宗の改心

本尊の阿弥陀佛へ惠公の他之善導大師像 法然上人像

西山上人の他之方便水 念仏と曼陀羅を井を掘りてゆくのくはるる

一念寺 法傳寺の南ふあり本尊阿弥陀佛は春日他あり

横大浴を下る羽の南小橋く けり道のさるるあり秀吉公の代は所て

運送するの舟着るりこより毎朝末まで船しをる又法皇の末大は所り

鳥羽の東代買ハ
鳥羽院雜宮
はしつゝあつ時
勅許ありし
いし何んゆ



鳥羽
鳥塚



久世里
藏王堂
琴弾櫓
板井清水



羽東師の歳を

久世より二里半

南より七久我

野に東にあり

このうらの法

天津兒屋命と

經

金葉
家の風

ふらぬおゆ

このうらの

杜の云葉

おーこそけ

藤原松浦

上久世藏王堂の醫王山光福寺と號し宗有八宗兼學ありて存するハ

藏王権現 後引者の他スニ五門の け寺の初め村上帝の御宇天曆年中あり

淨藏貴所 當寺の 吉野の眞金御嶽に嘯ふ終るそ一に以て密に伝ひしまる

洛小部人 の 夜爰もあく現すあぞ藏王権現忽結としてあつたれ

のい宮人 の 汝常には施高くして神妙のあり今部小部六部をも

供と平 永く有縁社生 汝等んを貴所奇異れといとる 若し深しかなら

と解て肩小結 び 脊に則肩奉る法と志た一に忽化して本係くありとまふ

桂川の西 れ けり上りて持しめる 銘あり河水流る處て水さけりて水の

のうん の 又一の森林のく小光明ありてまれば 舟敗天の吾場とさるん終る

藏王れ神像 大石 けめりて 初る星を有縁地と悟り 則州産ふと人なり

持念 を といしと夜西のゆふ た なる 柳けた又明天老翁ありらね 柳小向て

辨財天 賢王善逝 と唱へて 祥と貴所 を ねん を 羽 を 天 を 助 を 天 を 臨 の

地より今 の時 なる 藏王権現 は 地 を 早 く 仏 を 建 て 安 住 せ り 利 益 度 大

日向



向明神



寺証乙



大慈山乙訓寺の西園今里にあり當寺の推古天皇の御願りて聖徳太子に因基有り其後弘仁二年の冬弘法大師別當職に補八幡宮に示現級衆の大師に像彫刻しあり御首八幡宮に現し神像よきまみり足寮法擁護のありしなり故に神佛合體の御影より當寺の本尊足之御載三月廿一日因基を又實平法皇脱履のくちめ行宮としあり是れよめて法皇さまも名づいしありへも方境廣大ありて伽藍嚴重なり中頃南禪寺の伯英和尚住職又武別護持院再興ありて真言宗とありてむ

因伽井乙訓寺の東にあり大師寮は修りの時ぬらみ靈水ありとむ

今里 ありて海に

因基の遠の今里故実とて名付因面に相たさむく
 明星神の今里の云くあり推古天皇離宮ありし所なり



粟生光明寺

報國山光明寺の粟生野にあり宗音浄土宗西山流養の二本寺を奉尊園光
大師坐像ありて自化あり法然上人四國一巡一の母係の消息ありて
阿彌陀堂の本尊の惠心僧都の化ありて江別堅田浄土堂千體佛の中
尊る熊谷蓮生法師法園を負せりてい所ふと海州州府ありと
て安坐法然上人の廟蓮生の塔の本堂のくくろの上にある権
阿彌陀堂の傍ふありて方丈より御鉢釋迦佛を安坐せられ
當寺の草創は法然上人の滅後十六年ありて叡山の衆徒念佛
宗の繁榮をみるに法然上人の所他選擇集法破して
彈選擇集法并撰取者定照房とくその著し隆寛律師のり
に送り隆寛則具答ふ顯選擇集法述く海州僻案のありとざる
るを時夜の磔のぬく書に山徒大不憤く之塔ふ願流大流
峰起して圓基僧正ふ後一奏聞返通く隆寛法遠流ふり人又
上人の墳墓と破卻りんと評義すらくるるに徒身ありは

聞て大不憤く所墳法依所へうのいとく一夜ふ入て人志し石據
と地出し具介上人所持の親像法を人てを奉來定坊のり
送り具親二年安貞二年正月ふりて上人の石據より光明のや
しつを來定坊あやしと光のそん法をりて奉來り遠の南のこ
粟生野にありりて至る則は所に住ると母向法陀佛のそん小なり
て具親法依ふ不幸阿彌も不思議の靈告ありて手に奉合はまより上人
の傍弟を奉くる石據と粟生野のりて是法園とふれば上人の面見れ
存日始め一則當寺の山腹にゆめく茶毘を時小惣結して坐す空
ふぬるひに異香四方に蓋は則舍利と拾て廟堂と造之浄土
一宗の宗廟とるに對觀あり己上當寺法記の意とる
惣して當山の辨務の地ありて山林の陰より宝閣とる人常行念佛
の聲とるに講堂より万巻とるつて真如の月と標、杖葉園より
風吹ゆて黄金と布の紙陀園もいひつば當寺の本堂二近代の變之始好此
觀之、後代造之の規矩也



揚谷観音堂



奥海印寺寂照院



長岡天満宮

長岡や

田つらね

りすのあん

まくら

孫さあいさる

鴨のねくさ

西園寺



小倉明神



小倉のやしろの圓明寺の里は還より十余町西の山林あり本殿ハ

正一位小倉大明神例祭を四月五日ありてけりけり春分より

毎歳四月二日に猿樂あり 京六条巽氏

圓明寺ハ小倉山の南あり本尊ハ真師如来ありて聖徳太子乃

所化有り當寺ハいみじくへ堂塔魏々として九條殿下光明峯寺道

家公の艸創あり所子園明寺撰政實經公晩年ふるんて父祖の遺

跡を承りていづれ地ハ山莊と構て閑居し人の通にけし所とて

ゆゑに所墳小倉のやしろの巽小あり

歸海印寺ハ下植野にあり宗肯真言ありて本尊ハ千手觀音 定朝の

脇士ハ不動明王弘法大師の化地藏菩薩ハ傳教大師の化あり 實寺ハ

平家の代海利ヤハ 平家 菅原常時ハ 常時 成常時ハ 成常時 成常時ハ 成常時

成常時ハ 成常時 成常時ハ 成常時 成常時ハ 成常時 成常時ハ 成常時

勝龍寺ハ城乃ハ祢足の東あり

島山右衛門佐義就らんと繁信長記自承
十一年九月廿九日岩成主親勝龍寺の城乃



山崎
離宮八幡宮
寶寺
観音寺
八大天王

山崎 観音



大山崎天王の社素盞鳥の所王子八王子と鎮座一の鳥居の額小

野道風れそり山崎郷中は老ゆは例祭の四月八日ありて神徳之基を

當社勸請の年代詳くは神殿梁の銘曰養老二年再興と書け今本

坊小あり天王山の城の文明二年山名是豊赤松一族上洛して山崎を築く

観音寺の天王山の東半腋にあり真言宗ありて佛殿の本尊は釈迦牟尼

立像聖徳太子の師祖師堂より弘法大師の像と安置は本食以て僧正

中興して今の如く再建あり當寺の客殿より後八幡の風景眼下の遊

寶寺の観音寺の南小あり補陀洛山寶積寺といふ真言宗ありて本尊は

十一面観音の立像ありて聖武帝行基大士の立像堂内の寶頭雷の像を

聖武帝の御宇龍神奉りてあり行基の師之をこの寺に

妙喜庵の寶寺の麓あり禪宗ありて本尊十一面観音ありて千手

け所小ありて二尊ありて團を建てる善言公ありて後河ありて茶屋ありて

山崎の橋は桓武帝即位二年ふる是と造る中次より渡の橋とありて終る今

舟渡ありて荒川の傍よりありて今人遊南よりて今れ橋本なる是と

離宮八幡宮のち修徳還の中あり鳥井の類は行成卿の弟は社殿六
 八幡文と崇奉々々社壇の下より石清水涌出た
形相奇異
 若宮のやゝる武内臣左社の傍有後のち石社修りて
 當社の貞觀元年四月十五日行教和尚宇佐宮小法を八月九日帰洛
 一と倚ふの時小村老出て和尚對し去七月十五日夜は地心社殿の
 ぬ其環日輪のぬ一又橘樹の本陰より清水湧き出て異香薫と行教
 ちれば天聽小達し勅を奉て清水は社神神と造宮一のあり
 離宮の名の當社鎮座のゆかりありと弘仁帝の御時社殿の
 離宮のちのりけ宮室を新造しゆりて離宮八幡と稱す
 天は宮の社腰けけるは地味もむる所は休むをそと採り申
大鏡
 君のそむ宿は捕とひくも御座まをたのりみしり非
菅贈大政を
 宗鑑法師の出居の地は天海宮の傍に
宗鑑は足利義尚の侍童なり俗稱は志那
 岡戸明神山城根津の園塚をり一は所に園所あり岡戸院と号し今
 町のまゝありて岡戸町といふ谷の東にあり
園塚は金の像を奉り
山中にあり

